149
296

日蓮宗教義大意

020019-000-7

特16-752

日蓮宗教義大意

脇田　尭惇／記

M27. 5

ABH-0185

宗祖日蓮大士略傳

脇田堯惇起艸

佛陀滅後二千百七十一年（西洋紀元一千二百二十二年ナリ）ニ當リ大日本帝國ニ一大教傑降生シテ佛教ノ改革ヲ謀リ一宗ヲ新創セルモノアリ即我祖日蓮大士是ナリ大士安房國長狹郡小湊ノ產本姓藤原氏父ハ貫名次郎重忠ト云フ年甫メテ十二ニシテ出家シ十六歲ニシテ薙髮ス爾來東西諸南詢天下ニ周遊シ徧ク法龍義虎ノ間ニ往來シテ道ヲ索ムレモ佛滅既ニ久シク傳法漸ク其眞ヲ失ヒ諸祖ノ宗義ニ於テ疑ヒナキ能ハス是ノ時ニ當テ天台眞言禪淨土律等ノ自力門他力門ノ諸宗教流布シ其自力門ハ高尙ニ失シ他力門ハ近卑ニ流レ共ニ皆佛陀立教ノ本意ニ戻ルノミナラズ將ニ以テ國家人民ヲ誤ラントス大士謂ヘラク如カス直ニ之ヲ經典ニ己心ニ求ムルノ勝サルヽニハト便チ棄テ謝シテ入藏シ獨リ一切經ヲ繙クコト數々ナリ遂ニ佛陀出世ノ因緣ハ全ク法華經ニ存スルヿヲ發悟シ而シテ此法華ノ妙理ノミ善ク國家ヲシテ安寧ナラシムルノ正法ナルヿヲ斷定シ是レニ據リテ以テ佛教ノ改革ヲ謀ラントシテ新ニ一宗ヲ建立セラレタリ大士時ニ年三十二ナリ大士常ニ國家的ノ觀念ヲ以テ此正法ヲ弘宣ス故ニ其

著書守護國家論立正安國論等アリ就中立正安國論ノ如キハ國家ノ危急(禍亂ノ)ヲ見テ時ノ執權北條時頼ニ建言シテ國家ノ盛衰ハ教法ノ正邪ニ由ルコトヲ述ヘ上下擧テ信仰ノ方針ヲ誤レルヲ極論シ以テ邪法ヲ捨テ、正法ニ歸シ一國ノ安寧ヲ祈求スヘキコトヲ主張シテ忌憚スル所ナシ此書熱血ヲ濺キテ墨トシ鐵骨ヲ拔テ筆トシタルモノニシテ縷々萬言立論高邁謂ユル光焰萬丈天ヲ貫クノ概アリ夫レ大士諸宗流布ノ後ニ起リ擧世信仰ノ宗教ヲ折伏スルヲ以テ謫戮交々至リ獅坐暖カナルニ暇マアラス然レ𪜈大悲國家ヲ念フノ切ナル一身以テ正法ノ犧牲ニ供シ鼎鑊甘キヿ飴ノ如クニシテ毫モ屈撓セサルナリ抑モ當時北條氏ノ勢力ハ夫ノ佛國メロビンジヤン王家末造ニ於ケル宮內大臣チヤーレス(鐵槌)及ヒ其子ペピン(短王)ノ如シ蓋シ北條氏ヲシテ君臣ノ大義ヲ棄却シ非望ヲ窺窺スルノ心アラシメハ短王ノ試舞ヲ我國ニ演出センモ亦未タ測ルヘカラス其勢力ノ强大ナルヿ此ノ如シ大士進テハ此ノ如キ勢力强大ノ北條氏ニ抗シ退テハ天下多數ノ諸宗ニ磨リ死生艱難ノ間ニ大獅子吼シテ法華ノ正法ヲ弘宣シ以テ佛陀ノ本懷ヲ暢ヘ以テ國家ノ安寧ヲ企圖シ以テ末代ノ衆生安心立命ノ捷逕ヲ開カレタリ大士壽六十一ニシテ寂ス今ヲ距ルヿ六百十二年前

ナリ弟子四十餘人アリ亦善ク大士ト艱難ヲ共ニセリ遺文數十卷アリ皆世ニ行ハル現今寺院五千僧侶七千信徒二百餘万アリ而シテ其大山巨刹ト稱スルモノハ率子皆大士ノ靈跡ニ係ル世ノ論者大士ヲ以テ東洋ノ路惕ト稱ス是レ猶ホ未タ皮相ノ見タルヲ免カレス若夫レ大士ノ道德ノ高大ナル學問ノ深淵ナル氣宇ノ豪壯ナルヿヲ窺ハント欲セハ試ニ其遺著ヲ繙キテ之ヲ拜覽セヨ大士嘗テ曰ク日蓮カ慈悲廣大ナラハ南無妙法蓮華經ハ萬年ノ外未來マデモ流布スヘシ又曰ク印度ノ佛法ハ西漸スト遠鑑炬ノ如ク正ニ驗アリ本ノ佛法ハ西漸スト遠鑑炬ノ如ク正ニ驗アリ

日蓮宗教義大意

故大僧正　日薩老和上　講述　門人　堯惇　筆記

器傾けゝ水溢る國家穏かならされゝ身安からす故ゑ法華本門の大教ゝ國土常住を明して衆生本有の果報を示し先つ現世を安して更ゑ來世を扶けしむ是を以て祖師日蓮の言を建るや立正安國を以て一宗弘化の實績とす夫れ國ゝ法に依て昌へ法ゝ人に依て貴し然れゝ則ち國家の盛衰ゝ教法の邪正に由るか須く正法を弘めて國家の清寧を祈求すへきなり所謂る正法とゝ何そや法華本門壽量の妙法蓮華經是なり衆生本有の妙理を明せる法門なるを本門と云ひ壽とゝ功德なり量とゝ詮量なり此の妙理に無量の功德を備へたるとを詮量する經なる故ゑ本門壽量の妙法蓮華經と云なり所謂る衆生本有の妙理とゝ佛智所見の實相ゑして即ち一切衆生自爾天然の相貌なるもの唯一法界虛融無差ゑして全く十方三世の十界の依正色心を以て一人の身相とし心性とし身體とし永く衆生差別の妄見を亡汎せるものなり抑此の妙理ゝ竪ゝ三世横ゝ十方世界に亘り上ゝ日月星辰より下ゝ山河大地草木瓦礫等に至り

其中間に生命ある人類より禽獸蟲魚の末に至るまて凡そ森羅萬像一も殘さず皆我か一身の法界なり一念の三千なりと通達解了して我か一身と法界の萬像と同一不二にして都て物我の間ゝ於て一點の隔異なく物我絶待の我德なる是之を法界の大我と云ふ之を法華に明して我實成佛已來甚大久遠と說けり

夫れ釋尊年三十の時初て此の大我を覺悟し直に衆生に示さんと欲し試ゝ華嚴經を說て其一端を示すと雖衆生の狹量なる之を體達する能ゝす止むを得す四十餘年間各修各成差別の方便を說て衆生の機緣を調熟し年七十二にして始て本懷を暢ると

を得て先つ法華開演第一に唯佛與佛乃能究盡諸法實相と說けり其諸法實相とゝ十界の諸法眞實の相貌と云ふとにて三界の依正十界の諸法皆是れ本有無作の三身如來常住不滅一體不二の相を云ふ也衆生ゝ諸法ゝ於て異相を見諸佛ゝ諸法に於て同相を見る迷悟の見に因て諸法に同異の相をなすと雖諸法ゝ固より同不同の異なし而して衆生所見の異相ゝ衆生の妄見にして法の本理に非す但佛の所見の諸法の同相即ち是れ法の本理亦是れ眞實なるとを示して諸法實相と說き玉へり仍ほ衆生の了せさるを慮りて更に此の諸法實相の義を釋尊自ら我か一身に結攝し示して曰く

今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子と山河大地千草萬木皆我か一身なるか故に三界は皆是我有なりと云ひ又十界の衆生ゝ皆我か影像にして都て我身の分身散體ならさる者なき理を示して其中衆生悉是吾子と說けり斯の如き妙理ゝ今日始めて覺悟上より見る所なるか故に今此三界と云ふ今の一字ゝ昨迷今悟の分界を示せるなるへし故に經に如來如實知見三界之相と云へり斯の如く知見上より論せゝ始覺の妙理なれども其妙理の實體ゝ固より本有常住本覺三身如來なるとを明して成佛已來甚大久遠と云ふ也

されゝ文六四八の釋尊を認めて之を佛陀なりと云ふゝ衆生妄見の佛陀にして佛陀の眞相ゝ非す所謂る眞相とゝ十界三千の依正色心森羅萬像みな我一身なり一念の三千なりと通達覺悟せる毘盧遮那徧一切處の本覺三身如來是れなり釋尊已に是の如し一切衆生も亦復是の如し釋尊より論せゝ三界の依正皆釋尊の一體なり衆生より論せゝ衆生所有の三界なり衆生所有の悉是吾子なるへし佛と衆生と一體不二の妙躰なり是を華嚴經に心佛及衆生是三無差別と說けり

已に上來所說の如く衆生即佛身なれゝ衆生所住の國土も亦即ち諸佛所住の實報の

妙土なり故に經に我常在此娑婆世界と云ひ常在靈鷲山と云へるゝ是れ娑婆即寂光を明せるなり一の娑婆三界なれども衆生より之を見れゝ三界無安猶如火宅と說き佛より之を論すれゝ我此土安穩天人常充滿と云へりされゝ均しく三界なれとも迷悟の所見に依て淨穢苦樂を異にするのみ所居の三界に於て二あるに非るなり知見一ひ開れゝ觸處みな妙境ならさるゝなし故に釋尊出世の一大事とするゝ欲令衆生開佛知見使得清淨故出現於世と云ひ衆生をして知見を開悟せしむるに在るのみ衆生若し能く知見一ひ開けゝ三界の實相即常住の妙土を見ることを得んされゝ娑婆妙土の實報を示して衆生成佛の結果を顯し安心立命の基を立て一生成佛の本懷を達せしむるを法華の妙宗とす故に宗祖本尊抄に示して曰く今本時の娑婆世界ゝ三災を離れ四劫を出たる常住の淨土なり佛已に過去に滅せす未來にも生せす所化以て同體なり是れ即ち已心の三千具足三種の世間なりと

故に宗祖日蓮開宗の初に當て先つ立正安國論を制し之を政府に建言して法華の正法に歸依し以て國家の靜謐を祈求すへきの急要なることを論述し法華弘通の確標を定立す夫れ一身の安寧ゝ必す一家の無事に依り一家の安寧ゝ亦必す一國の安寧に

因る國にして安寧ならされゝ一家一身の安寧尙は得へからす況や一國の安寧をや抑も三界ゝ佛國なり娑婆ゝ寂光なり惜ひかな但衆生の迷るか故に本來寂光の淨土に居なから淨土を見す貪瞋痴慢の煩惱を起し生老病死の苦界に陷り大火所燒時の三界に輪廻せると是れ自ら求たるの穢土苦惱の果報にして娑婆國土の本有に非るなり此世界の實體ゝ釋尊法華に正しく示して我此土安穩と說き玉へゝ固より安樂清淨の國土にして憂悲苦惱あるとなく生を迎ひ死を送り人間一生の能事を全ふして毫髮も憾みなく現世安穩後生善處の佛說の如くあるへかりしを只衆生の思ひ習はせる迷にて憶想忘見の網の中に入り自ら此の惱みを致せるこそ哀れなれ人若し佛知見を開きなは世界ゝ自ら安樂清淨の國土と顯れて佛の境界に入り常寂光の妙土となる故に速に佛の知見を開て自受法樂の妙果を得んと願ふへし苟も佛知見を開んと欲せゝ法華本門の正法に歸依すへきなり誠に能く權邪の偏敎を捨てゝ法華眞實の正法に歸依せは天長へに地久く人物相ひ和樂し五風十雨鼓腹擊壤の國光を觀るを得て三界眞に佛國なる實境を感見し四海皆な兄弟の安寧を全ふし天下一人の其所を得さるなく自他俱に安く同く常寂光土に安住するの結果あらん

宗祖一代の化導ハ此の法華本門の正法を建立し末法の衆生をして成佛の直道を得せしむるに在り然るに聖を去ること既に遠く權實大に雜亂して擧世皆な信仰を錯る大悲切に倒惑を憫み此の正法を唱導すと雖容易く信受せさるのみならす怨敵紛然として競ひ起り將に正法流布の前路を遮らんとするの勢ハ恰も佛の金言ム符合せり經に云く如來現在猶多怨嫉況滅度後と是に於てか先つ死身弘法の大願を立て曰く善ム付け惡に付け法華經を捨るハ地獄の業なるへし大願を立ん日本國の位を讓らん法華經を捨てゝ觀經等に就て後生を期せよ父母の頸を刎ん念佛申さゝはなんとの種々の大難出來すとも智者に我か義破られすんは用ゐじとなり其外の大難風の前の塵なるべし我れ日本國の柱とならん我れ日本國の眼目とならん我れ日本國の大船とならん等と誓ひし願破る可らすと斯く大願を立させ玉ひて建立する所の本門法華の正法なり其正法三あり曰く本門の本尊曰く本門の題目曰く本門の戒壇是を本門壽量の三大秘法と云ふ此の三大秘法ハ釋尊出世の本懷宗祖當身の大事たる法門なれば其義意甚だ玄妙にして靈活なり請ふ試に其一端を摘要して之を示さん

初ム本尊とハ本門の教主ハ釋尊即ち十界の大曼荼羅是あり其中央に圖出する南無妙法蓮華經の七字之を總體とし其左右に細列する諸尊即ち十界なるものを別體とす曰く釋迦牟尼佛多寶佛佛界上行無邊行等菩薩界舍利弗界緣覺目連聲聞界梵釋四王天上界閻浮提人間界阿修羅王修羅界龍王畜生界鬼子母十女餓鬼界提婆達多地獄界等の十界是なり夫れ十方三世の諸法廣しと雖も十界常住の相に過きす故に直に十界を以て法界の萬法を攝して一の大曼荼羅とす此の大曼荼羅ハ久遠本佛の實體を圖示せるものゝよして形相莊嚴の佛陀を指すに非るなり如來最初道場に於て覺悟し玉へる所の本體ハ十方三世に周徧貫徹して十界の色像三千の森羅無盡に緣起し圓融無礙の妙體にして一切衆生の四大六塵みな如來の法身に非るなく一切衆生の五陰三業みな如來の報身に非るなく一切衆生の四躰六根みな如來の應身に非るとなし一躰の妙法にして種々の異相を顯し事々物々互に融し互に即して三千の諸法未だ曾て纏毫の隔異なきを本覺無作の三身如來と云ふされハ夫の提婆の惡逆も龍女の愚痴も餓鬼の貪欲も乃至十界各々の本分を其儘併せて一の久遠本佛の全體なりと示したる本尊なり譬へハ川流江河の諸水も大海に歸入すれハ同一の醎味となりて復差別なきか如

く十界の諸法も亦是の如し如來の眞如海に會入し佛の知見を以て之を見れゝ一切皆な遮那の妙境本覺の妙智ならざるゝなきなり

斯く本尊ゝ釋尊の身上に就て示したるも其本意ゝ凡夫一身の本體も亦是の如く三千常住十界圓具の佛身なることを觀照せしむるの妙境なり宗祖云く所詮妙法蓮華經の當體とゝ何物ぞ法華經を信ずる父母所生の肉身是なりと苟も此の妙境の本尊に向て我身を觀照せゝ行者の一色心ゝ全く是れ久遠本有の妙體にして法界の萬法三千の森羅ゝ全く自身の分身散體なれゝ中央の題目ゝ但是れ行者自己の一色心を表彰せる本體にして四圍に羅列せる諸佛衆僧四衆八部ゝ幷に自身の分身なり其外十方三世の十界の依正森羅の諸法ゝ自己一色心の全象なることを開示せる本尊なりと知るへし

既に十界同一の體なるか故ゝ其體より緣起する善惡の心も亦隨て十界に周ねく平等に感通す故ゝ一念も佛心を起せゝ十界共ゝ佛心となり一念も地獄の心を起せゝ十界共ゝ地獄となるなり一念の微といへとも感通の廣く且つ速かなること例へゝ一掬の水も之を口に含めゝ全身を潤し兩掌纔ゝ火爐に向へゝ暖忽ち雙踵ゝ及ふが如

し是他なし其體一なるか故に其用も普く感通するなり一念の微それ愼まさる可んや夫れ公私の二心は善惡の分岐する所なり故に佛の敎を設くるや勉めて人をして物我の情執を去て少欲知足普賢の行を修し自他共に安寧に歸せしむるに在り今ま本宗の行者よく本尊に向て吾身の本體即ち十界圓具自他同體の身なることを了知し自他彼此の間に於て苟も物我の隔異を亡沢し愛憎取捨の情勢を脫離せゝ喜怒哀樂等の七情皆其規を越ることなく觸向對面亦皆な公正無私の平等心ならさるとなく此身已に一分佛の境界に入れり來世も亦何ぞ佛身ならさらんや故に宗祖曰く今ま法華は八敎に超へたるの圓なれゝ速疾頓成ゝして心と佛と衆生と此の三ゝ我か一念の心中に攝して心の外になしと觀すれゝ下根の行者尙は一生の中に妙覺の位に入る況や中根の者をや何に況や上根をや總して一代聖敎ゝ一人の法なれゝ我身の本體を能々悟るへし之を悟るを佛と云ひ之ゝ迷ふゝ衆生なりと

夫れ悉達太子ゝ人身より直に進て釋迦牟尼佛となり一天四海を利益せり宗祖善日麿も亦凡夫より發心頓悟して大菩薩の法位に登り餘光猶は萬年の末に赫耀たり舉一例諸と云て龍女の成佛ゝ一切の女人成佛を顯はし達多の成佛ゝ一切の惡人成佛

を知らしむるか如く宗祖の成佛い末法の一切衆生の成佛得脱の先例を爲せるなり釋迦宗祖を以て自ら期するい自ら信するの至りにして宗教信者の本意なるへし況や人い萬物の靈長なり而して但一己一身の私利に齷齪し自他共樂の道を講究せすんい何くに其靈長たるに在るや況や吾身の本體い本覺無作の三身如來なるを知らす自ら卑劣の凡夫なりと思ひ自暴自棄して大道心を發す能いさるものを經に窮子と云へり窮子もと窮子に非す大富長者の一子なり然るを自ら失脚迷誤して自ら窮子と謂へるなり例へい莊周の夢に胡蝶となるか如し胡蝶豈に莊周の本身ならんや今ま行者も亦此の如し自ら迷て凡夫なりと思ふか故に五欲七情に縛されて愛憎取捨の心を恣にし只一身の私利のみを貪り憂悲苦惱に沈み未來い六道輪廻の惡果を感するの迷報を致せるこそ哀れなれ是等の迷夢を警覺し苦累を救んか爲に先つ本尊を圖して凡夫の本體即ち佛身なるとを示し大道心を感起せしむへき大地盤を定めたり故に行者此の本尊を觀照し自暴自棄せる卑劣の心を除却せい凡身に即して妙覺果滿の佛身を得ると猶ほ胡蝶の夢覺めて本の莊周に復するか如く窮子の身とりも直さす長者の子となるか如く舍利弗の身を改めすして華光如來となるか如

きなり故に本尊い衆生の成佛の基本を示せるの妙境なりと知るへし（已上本尊を說き了る）

次に題目を明さい既に吾身全く佛身なるとを信得せい念々宜しく佛心即大道心を發し自己本分の大利を求て自他共樂の眞果を成すへし然るに衆生の散心なる斂念思惟して之を憶持すると難し故に口業唱題を以て心業受持に代るなり唱題受持い法華立行の妙觀なり之を本門の題目と云ふなり此の題目即ち南無妙法蓮華經い釋尊久修の妙法にして法華一經の精要なり誠に能く至心に住して心念口唱せい功德冥に蒸被し利益虛しからす日用常作の際に於て善事にまれ惡事にまれ苦も樂も皆是れ妙法不思議の本理蓮華因果の感應なりと信しない縱ひ樂境に遇ふも之に惑溺耽湎するの誤りを爲さす不幸にして苦境に陷るも苟も免んとするか如き卑劣心なく苦をい苦と思ひ樂をい樂と思ひ一心清淨に南無妙法蓮華經と唱へ苦樂の二境に惑亂せられす自ら心の師となり心を師とすると能く五欲七情を折伏し自身即四德の佛身なりと深く信して凡劣卑陋の心を除去すへし若し嗔恚の心盛ならい闇に之を思ふへし本尊既ま提婆を列ねたり抑提婆の墮獄するや嗔恚を不理の境に恣にするか故に遂に惡果を感せり亦嗔恚の心を以て猛省勇斷よく三惑の惡障を一掃して

速よ瞋恚法界の本理に達しぬれゝ地獄の常體を改めすして天王如來の善報を來せり均く瞋恚よして地獄佛果の壞を爲せり昔日の提婆ゝ能く瞋恚を御して遂に成佛せり我も亦何そ能せさらんやと深く之を猛省せゝ瞋恚に於て自ら身心共よ肝なるとを得て夫の物我の際に於て公平無私の本理を見て自他共樂の境に至らんと難からさるへし豈に但瞋なく痴なく空々寂々槁木死灰の如くにして方に始て佛陀と謂ふへけんや今ま愚夫愚婦の目に一丁字なきものなりとも至信に住して唱題受持せゝ亦能く此の佛境界に至るとを得ん之を本門の題目修行の妙觀と爲すなり

三に戒壇を明さゝ嗚呼身ゝ是れ本覺無作の佛身なり法ゝ是れ久遠本覺の妙觀なり妙境妙智函蓋相應し唱題修行せゝ念々清淨にして五欲愛染の妄情自ら消滅し自然に本門の妙戒を感得し行住坐臥語默作々よ皆是不思議解脫を得て生老病死憂悲苦惱あるとなく常樂我淨の妙土を感見するとを得ん所謂受持の行者所住の土即常寂光土なるものなり故に經に當知是處即是道場と云へり文の意ゝ法華修行の處ゝ何の場所なりとも一切皆是れ道場にして佛の住處なりと示せるなり之を本門の戒壇に住せる受持受得の妙果報とするなり立正安國論に曰く汝早く信仰の寸心を改めて速に實乘の一善に歸せよ然れゝ則ち三界ゝ佛國なり佛國何そ衰んや十方ゝ悉く寶土なり寶土何そ壞んや國に衰微なく土に破壞なくんゝ身ゝ是れ安全心ゝ是れ禪定ならんと抑立正安國ゝ一宗建立の大本なり然れゝ則本門法華の宗旨ゝ本門三秘の正法を建立して衆生成佛の基本を固ふし國土常住の眞理を明にして國家を安穩ならしむ所謂先つ現世を安ンして更に來世を扶けしむと云ふもの是なり之を本門法華宗の大意とす

明治二十七年五月十七日印刷
明治二十七年五月二十日發行

著作兼發行者　神奈川縣愛甲郡金田村妙純寺住職　脇田堯惇

印刷者　東京市京橋區三十間堀二丁目一番地　染谷仙三

印刷所　同所　明教印刷所